

原典

外科正宗 卷4 鼻痔第五十二

肺熱シテ鼻内息肉、初メ、榴子ノ如ク、日後漸ク大キク、孔竅ヲ塞ギ、
氣宣通セザル者之ヲ服ス。(原名は、辛夷清肺飲)

鼻孔

処方構成

麦門冬 5.0 石膏 5.0 知母 3.0 百合 3.0 黄芩 3.0 山梔子 3.0
辛夷 2.0 枇杷葉 2.0 升麻 1.0 (甘草)

方意

辛夷：辛温。上部の風熱を散ず。鼻淵、鼻塞を主治する。通鼻、風解表、鼻づまりを治し、
膿性鼻汁を軽減させる。

黄芩：苦寒。消炎、解毒作用、清熱燥湿の働きが強い。

知母：辛苦寒。陰虚を治し、肺を潤して清熱する働きがある。清熱瀉火、生津。

石膏：辛、甘、寒。大寒の薬、熱を清し火を降ろす。発汗解肌、生津止渴。

山梔子：苦寒。心肺三焦の邪熱を瀉す。清熱瀉火の作用を有す。

枇杷葉：苦平。清肅肺気により、止咳化痰する。また潤燥の働きがあり、肺熱による
咳嗽や痰に用いる。

麦門冬：甘、微苦、寒。肺を潤す。煩を除き熱を瀉し、痰を消し咳を止め、津を生ず。
潤肺止咳、生津。

百合：甘、微苦、微寒。潤肺止咳、滋陰生津。

升麻：甘、辛、微苦。風邪を表散し、火鬱を發す。能く陽氣を至陰の下より升し、
甘温の薬をひきて上行す。

氣宣通セザル

使用目標

日本医師会医薬カードより

本方は体力中等度、あるいはそれ以上の人で、鼻閉塞、膿性鼻漏、後鼻漏などの鼻症状
のある場合に用いる。局部に熱感および疼痛を伴うことがある。

鑑別を要する主な処方：葛根湯加川芎辛夷、荊芥連翹湯加辛夷

葛根湯加川芎辛夷；体力中等度、あるいはそれ以上の人で、鼻閉、鼻漏は同様であるが、
鼻汁が本方ほど膿性ではなく、頭痛、頭重、項背部のこわばりなどがあ
る場合に用いる。

荊芥連翹湯加辛夷；体力中等度の人を中心に、副鼻腔、外耳、中耳、扁桃などの炎症が慢性化したものに幅広く用いる。一般に皮膚は浅黒く、腹部は腹直筋が緊張していることが多い。

適応性：副鼻腔炎、肥厚性鼻炎、慢性鼻炎、鼻ポリープ

診療医典より

上顎洞炎や肥厚性鼻炎、鼻茸、嗅覚欠如症、鼻閉塞のはなはだしいものなどで前記の諸方（葛根湯、荊芥連翹湯加辛夷、小柴胡湯など）の応じないもので、熱毒があつて疼痛を伴うものには、本方をこころみるがよい。

新版漢方医学より

鼻茸の処方として記載されているが、鼻閉塞を主訴するものに広く用いても良い。上顎洞炎、肥厚性鼻炎、鼻茸、嗅覚欠如症、鼻閉塞症などで、炎症が頑固で疼痛を伴うものに良い。また、鎮咳作用もあり、慢性の気管支炎に用いることもある。

古典にみる辛夷清肺湯

内科秘録／本間棗軒

鼻^{（鼻）}は、病原候論に出てまた外台秘要等に鼻香臭を聞かずといい、また鼻塞がりて利かずという、即ち鼻の塞がりて香臭を弁するを能はざるなり。感冒にて鼻の利ぬは、邪の退くに随て自ら通するなり。鼻痔・鼻淵等にて鼻の塞がるは本病を治するきは自ら癒つて香臭も聞くようになるものなり。此の病、発熱悪寒等の証なく疼痛もなく涕夷もせず、軽症のようにみえて治し難きものなり。愚按するに経の鼻に入りて能く香臭を弁するものを洋籍になつて臭神経という。この神経の閉塞したるにて老衰したる人の聾となり又黒障眼を患つて盲すると同じ捨置ても大害には成らぬ者なれど香臭を聞されば、如何程の滋味にても其本味を失する者なれば、人人深く憂と為す者なり。此の病を治するの方は辛夷を君主の薬とす辛夷清肺飲、丹溪の鼻淵一方等を内服し、薤辛散を鼻中へ吹くべし。

瘍科秘録／本間棗軒

脳漏には、辛夷を第一の主薬とし、何方へも加味して用いるのを良策とする。初発で頭痛の激しいものは、防風通聖散加辛夷がよく、もし効がなければ辛夷清涼飲、辛夷清肺飲などを選用する。また因循として日を延き、膿水が多くなり虚候を伴うものには、補中益気湯加藿香、辛夷を与え、虚脱が甚だしいものには十全大補湯である。

勿誤藥室方函口訣／浅田宗伯

滯

辛夷清肺湯 肺熱、鼻内息肉、初め榴子の如し、日後漸くに大にして孔窮を閉塞し、氣が宣通しなく成ったものを治す。

此の方は脳漏、鼻淵、鼻中息肉、或いは鼻香臭を聞かざる等の症凡て熱毒に属する者に用いて効あり。脳漏、鼻淵は大抵葛根湯加川弓大黄あるいは、頭風神方に化毒丸を兼用して治すれども熱毒あり疼痛甚だしい者此の方でなければ治すこと能わず。

先哲医話／浅田宗伯

酒查鼻は、酒を厳禁し、ときどき三稜針で刺して血を去り、辛夷清肺湯を与える。

瘍科方筌／華岡青州

辛夷清肺湯 肺熱、鼻内息肉、初め榴子の如し、日後漸く、大となり、孔窮を閉塞するを治す。

吾竹楼方函口訣／百々漢陰、鳩窓

辛夷清肺飲 鼻の内に腫物を生ずる者を治す。転じて鼻に香臭を聞かざる者も能く治す。上の通気散（麗澤通気湯）は発表の意あり。此の方のかたは肺の熱をさますを主とす。時に臨んでかん酌して用うべし。

最近の文献から

鼻閉に対する辛夷清肺湯の治療効果/鈴木 茂 他：漢方医学 12 24～28

鼻閉を主訴とする慢性副鼻腔炎患者20例に対して、辛夷清肺湯を投与し、下記の結論を得た。

1. 鼻閉に関しては、著効5例(26.3%)、有効例7例(36.8%)、不変7例(36.8%)で、改善率は63.1%であった。
2. 頭痛に関しては、著効2例(12.5%)、有効9例(56.3%)、不変5例(31.3%)で、改善率は68.8%であった。
3. ポリープに関しては、著効1例(6.7%)、有効例10例(66.7%)、不変3例(20.0%)、悪化1例(6.7%)で、改善率は73.4%であった。

辛夷清肺湯による慢性副鼻腔炎の治療成績 / 澤木 修二、他：耳鼻展望 27 301~310
1984

表 投与方法 (各8週間投与)

I群	辛夷清肺湯 (7.5g)	31例
II群	辛夷清肺湯 (7.5g) セラチオペプチダーゼ (30mg)	25例
III群	セラチオペプチダーゼ (30mg)	18例

※2週間ごとに自覚症状、他覚的所見を記載。投与前、8週間後、X線写真撮影

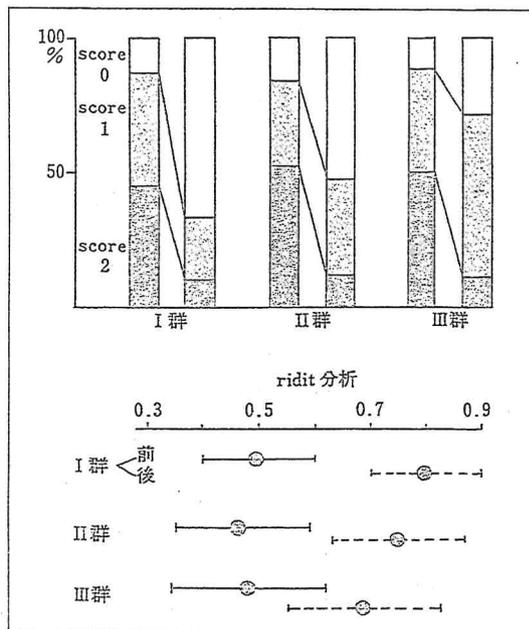


図1 鼻閉の改善度

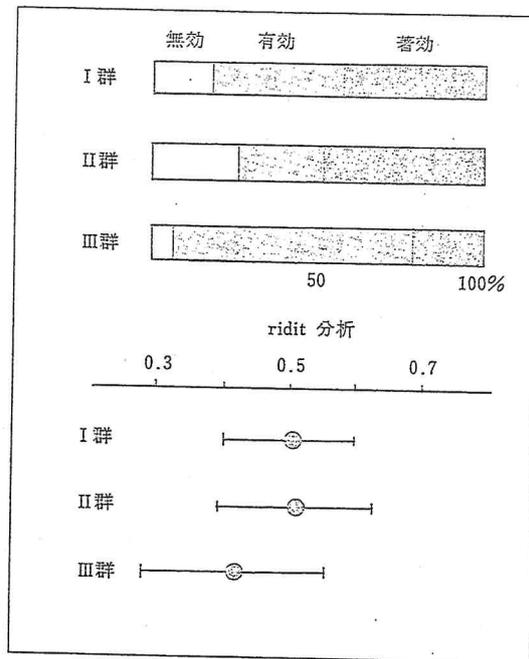


図2 総合判定

副鼻腔気管支症候群の漢方治療/症例報告 多留 淳文

型	例数	効果
気管支炎	9	著効
気管支拡張症	3	有効
気管支喘息	4	無効
汎発性細気管支炎	1	無効